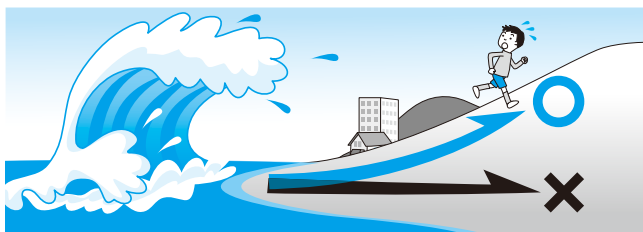


その時どうする？ ～津波が発生したら～

津波はとても速いので、津波を見てから逃げていては間に合いません。強い揺れを感じたり、津波警報を聞いたらとにかく早く逃げましょう。

- ・津波は河川をつたって上流までやってきます。
海や川から離れ、「より高いところ」へ逃げましょう。



- ・原則として、車での避難はやめましょう。車で避難する人が多いと、道路が渋滞してしまい、そのために津波にのみ込まれてしまう可能性があります。
- ・津波は繰り返し襲ってきます。また、最初の波より次の波のほうが大きい場合もあります。津波警報が出ている間は避難を続けましょう。



知恵袋「稲むらの火」

今から約150年前の1854年（安政元年）11月5日（旧暦）、紀州広村（現在の和歌山県広川町）は安政南海地震による大津波に見舞われました。この時、35歳になる村の郷士浜口梧陵は、暗闇の中で逃げ遅れた村人が逃げる方向を見失わないように、水田の稲むら（すすきや稲束を積み重ねたもの）に松明で火をつけ、この火を目印に村人を安全な場所に避難させました。

その時の津波による村の被害は大きく、梧陵は故郷の復興のため、被災者の救済に尽力するとともに、津波から村を守るべく高さ約5m、長さ約650mの防波堤の建造に取り組み、後の津波による被害を少なくしました。

日本ではこの大津波が襲った11月5日を「津波防災の日」と定めているほか、国連もこの日を「世界津波の日」と制定しました。

